

音楽Ⅲ 改訂版 検討の観点と特色 (17 教出 音Ⅲ304)

| 項目                                | 観 点  | 特 色 等   |
|-----------------------------------|--|---|
| <b>1 内容の選択<br/>・程度</b>            | ＊学習指導要領、<br>教科の目標を達成するために必要な教材<br>＊基礎的・基本的<br>事項の理解や習得のための配慮         | ○学習指導要領に示された学習項目を網羅し、偏りなく構成されている。<br>○Voice, Instruments, Dramas & Music, Appreciation に分かれており、いずれも「芸術科 音楽Ⅲ」の学習事項を獲得するために十分な教材数と内容である。<br>○楽典、音楽史年表、ギターやキーボードのコード表は、生徒が表現教材に記されている用語を調べたり、楽器の奏法を確かめたりする上で資料性が高く、また鑑賞教材の時代的な位置づけや背景を理解する上で有用である。<br>○各教材の下に脚注が置かれ、作品の理解の補助となる。   |
| <b>2 組織・配列<br/>・分量</b>            | 学習指導を有効に進めるための組織・配列・分量   | ○表現領域の歌唱においては、独唱・斉唱から合唱まで様々な編成の教材があり、歌詞も日本語以外に英語、イタリア語、ドイツ語、中国語、朝鮮半島の言語まで幅広く網羅されている。特に日本の歌では、新しい歌から世代を越えて歌い継がれてきた歌まで新旧のバランスがとれた選曲となっている。器楽においては、リコーダーやギターの重奏・合奏、また、キーボード・アンサンブルや和楽器を用いた合奏まで、難易度に軽重をつけてバランスよく選曲されている。創作は 70～73 ページにまとめて設けられており、音楽のしくみを理解しながら、個性豊かな創作活動が展開できるように配慮されている。<br>○鑑賞領域において、西洋音楽は楽器の種類・形態ごとに配置し、音色や音楽的特長をとらえることができるよう工夫している。「現代の音楽」のコーナーでは、新しい音楽技法を追究した 20 世紀の音楽を紹介している。「日本の音風景」では花鳥風月をテーマに、様々なジャンルから四季を描いた日本伝統音楽を選曲している。「世界の音楽めぐり」では「Voice」「Instruments」「Performance」「Court music & Religious music」の 4 つのカテゴリーから選曲し、演奏写真と並べて構成している。<br>○表現と鑑賞の両領域を関連させて学習を行える「Dramas & Music」では、オペラ「トゥーランドット」を 4 ページにわたって取り上げ、ストーリーの展開を写真や譜例と合わせて追えるようなレイアウトを施している。また、様々なオペラ、ミュージカル、映画、アニメなどの楽曲を取り上げている。<br>○「楽典&ソルフェージュ」においては、楽典の解説と並んで、それらの事項を活動を通して体感できるような「体験」が設けられており、ソルフェージュ能力の育成の補助となる。また「Start up! Playing the Piano」では、難易度の異なるピアノの弾き語りのための教材が、運指等の注意事項と合わせて示されている。 |
| <b>3 表記・表現<br/>および使用上の<br/>便宜</b> | ＊学習意欲を高めるための配慮、<br>用語・記号の取り上げ方および記述の方法<br>＊印刷の鮮明度、<br>活字の大きさ、行間、製本など | ○用語、記号は特殊なものは楽譜下に、汎用性の高いものは 60～61 ページにまとめて掲載されている。楽典、楽式に関するものや作曲家の肖像なども表や図版にして見やすくまとめられている。またギターやキーボードのコードの一覧表もあり、資料として有用である。<br>○A4 判の判型で楽譜もゆったりしていて、音符や歌詞がたいへん見やすい。また紙質は白く、印刷も鮮明で、各所にあるカラーの図版や写真が美しく、生徒の学習意欲を高める。表紙はコーティングが施され、製本も堅牢である。  |
| <b>4 総合所見</b>                     |  | ○音楽文化についての理解を深め、表現と鑑賞の能力を伸ばすのにふさわしい教材や写真・図版が精選されており、創造的な音楽の力、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てることが意図されている。<br>○全般にわたり指導要領の目的に沿った学習内容を基本としながら、普遍的な価値をもつ教材と新鮮味のある教材がバランスよく配置されている。   |